

2024 April 13-14th

Hibiki Taira 



OKAYAMA RACE Report

.....

#2

muta Racing INGING

Rd.1



AUTOBACS SUPERGT Round.1 OKAYAMA 300km Race

4/13 (SAT) 予選

コースコンディション：ドライ

観客数：8,500

3/14 (SUN) 決勝

コースコンディション：ドライ

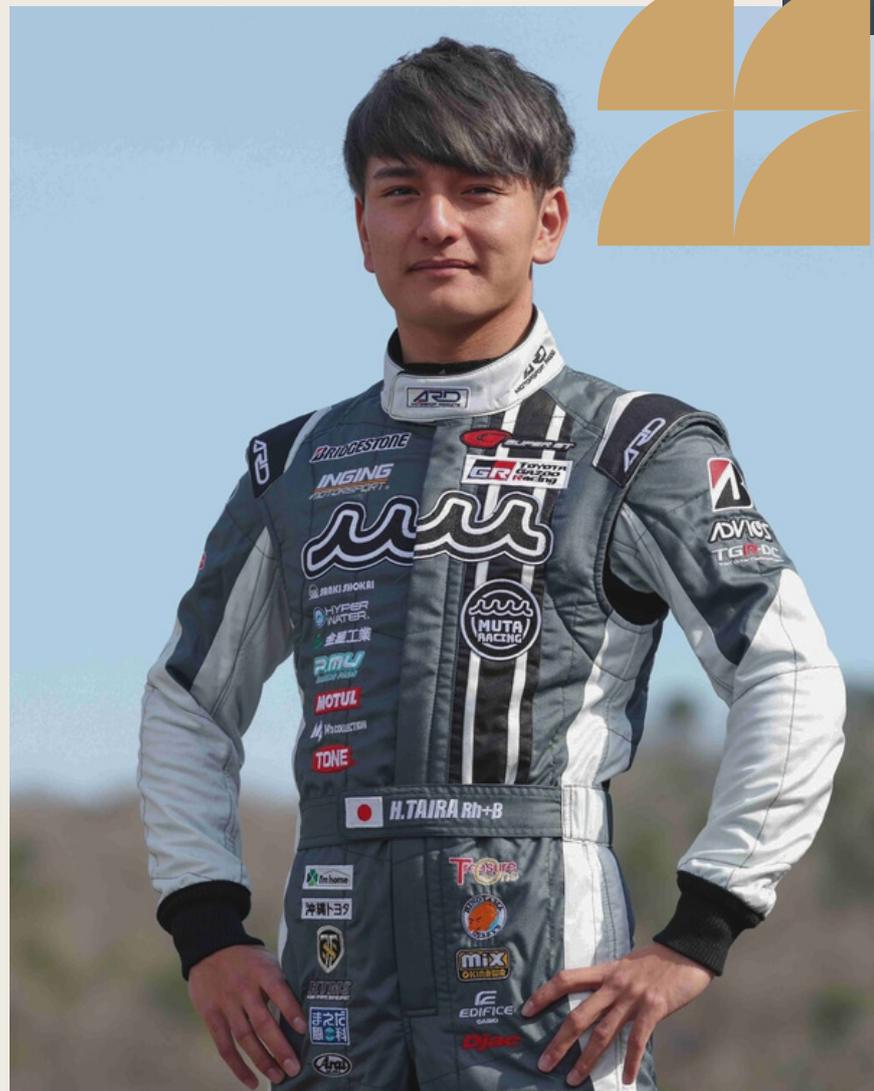
観客数：15,500

SPONSORS



沖縄トヨタ

Djac





リベンジに燃える開幕戦 去年の雪辱を果たす初優勝

PLACTICE

DAY 1

前年と同じ体制で挑む 2024 シーズンが開幕。

シーズンオフの期間でマシンにアップデートを施し、より一層パワーアップしたマシンと共に今シーズンを戦う。

4月ながら既に初夏を思わせる暑さとなり、持ち込んだ硬めのタイヤ選択が功を奏す形となった。予選アタックの練習をしながら車のバランスを確認。セットアップを調整していきながら全体4番手タイムを記録。新規参戦チームも数台いる中で様子を伺いながらの練習であったが、確実な手応えを感じて予選を迎えた

QUALIFY P2

予選方式に大きな変更があった。

Q1, Q2の合算タイムで予選順位が決まり、どちらも同じタイヤを使用という方式に変更。Q1を平良が担当。

Q1 B組でトップタイムを記録し順当にQ2に進出。

Q2は堤選手が担当。

素晴らしいアタックをしたものの、7/100秒及ばず予選2番手で終了。





DAY 2

RACE P1

予選は惜しくも 2 番手だったが、決勝でのレースペースには期待があった。
平良がスタートを担当。

レース 82 周をタイヤ無交換で走り切る作戦を敢行。スタートからタイヤを使いすぎないように温存しながらも、トップからは離されないように細心の注意を払いながら周回数を重ねていく。

終始トップと 1,2 秒程度の僅差を保ちながら走行し 33 周目にピットイン、トップを走る 65 号車が周回遅れに追いつくタイミングでピットに入ったことで

コース上で混乱によるロスなくドライバー交代を済ませることができた。予定通りタイヤ無交換でコース復帰。堤選手も良いペースを維持し順当に周回数を重ねていく。

ライバルの 65 号車が 50 周目にピットインをしタイヤ交換を済ませてコース復帰。
この時点で 20 秒近いマージンを持ち後半戦に突入。

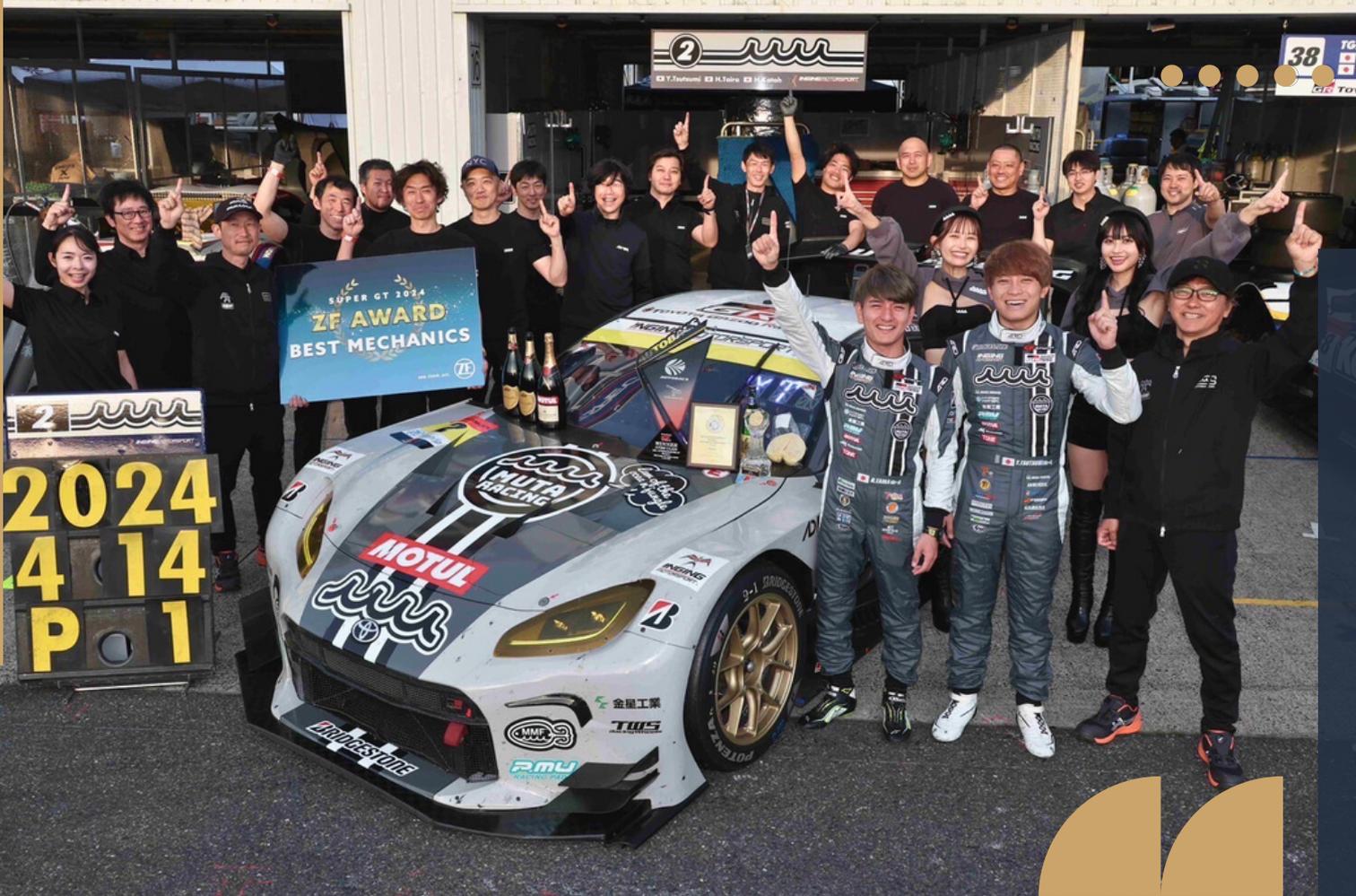
65 号車は新品タイヤで追い上げてきたものの、大きなマージンを守り抜き
下位を全く寄せ付けることなくトップチェッカーをうけた。

予選 合算タイム

Pos.	No.	Car Name	Time
1	65	LEON PYRAMID AMG	2'52.198
2	2	muta Racing INGING	2'52.265
3	61	SUBARU BRZ R&D	2'52.513

決勝

Pos.	No.	Car Name	Gap
1	2	muta Racing INGING	
2	65	LEON PYRAMID AMG	4.895
3	7	Studie BMW M4	20.628



To all my Sponsors

今年も皆様の多大なるご支援ありがとうございます。
おかげさまで万全の体制でレースに臨むことができ、昨年なかなか辿り着けなかった優勝を開幕戦で達成することが出来ました。
今大会は全車ノーウエイトでのレースでしたが、次戦以降ハンデウエイトを科せられるためより厳しいレースとなることが予想されますが、昨年取れなかったチャンピオンに向けて優勝目指して奮励します。

